

# 最近、事業の調子はいかがですか？

過去の取材企業・人物を、再び直撃取材！

リポーター 伊藤秀範



## 職業紹介から「求人サイト」へ 看護教員の「主体性」に働きかける

### ミライブリッジが挑む「コロナ禍の看護教員支援」

「看護基礎教育」支援をビジョンに掲げ、看護教員のキャリア支援などを行っているミライブリッジ。本誌では2018年の夏（掲載は同年9月号掲載）の取材以来である。当時、eラーニング講義による「入学前教育講座」もスタートさせていた同社。あれから2年半が経過した現在のコロナ禍にあって、メディアでは連日のように医療現場で奮闘する看護師の献身ぶりを伝えているが、その看護師養成の教育現場はどうか。そうした看護教育現場の現状も含め、同社の取り組みから、コロナ禍における看護教員のキャリア支援の今をレポートする。

#### コロナ禍で好調な eラーニング事業

eラーニングによる「入学前教育講座」のその後は順調なのか。コロナ禍の影響も含めて、まずはそこから聞いてみたい。2年半前は、東京女子医科大学看護専門学校（東京都荒川区）の1校に導入した直後であったが――。

「eラーニングによる看護系の大学や専門学校を対象とした『入学前教育講座』は、現在、6校の学校に導入されています。新型コロナウイルスの影響もあり、eラーニング導入に対する学校側の姿勢が柔軟になり、以前よりもポジティブに受け止められ始めている点も、ニーズ拡大につながっている要因の一つだと思われれます」。

ミライブリッジの森田祐明代表取締役（以下、森田氏）はそう語る。同社としては4年目に入ったeラーニングによる「入学前教育講座」は、コロナ禍による逆風どころか、むしろそれを「追い風」にして導入先を順調に伸ばしている。

現在は先の東京女子医科大学看護専門学校の他、東京墨田看護専門学校（東京都墨田区）、至誠会看護専門学校（東京都世田谷区）、相馬看護専門学校（福島県相馬市）、日本医科大学大学校（埼玉県越谷市）、岐阜保健大学（岐阜県岐阜市）の5校が導入。同社のeラーニングによる「入学前教育講座」を活用しているという。

看護系の学校がなぜ今、「入学前教育」に必要性を感じ、そのための支援講座の導入を進めるのかについては、本誌2018年9月号のレポートで詳しく掲載している。

よって、その内容や導入する学校側のニーズ等の詳細はそちらのバックナンバー記事に譲るとして、eラーニングに対する看護の教育現場における許容度の高まりについて、森田氏はさらに次のように分析する。

「看護教育の世界は、かなりアナログな世界でもあります。教育とは教師と生徒が対面で行うものという従来型の文化がまだまだ根深く、教育講座においてもeラーニングというツールを介した教育というだけで抵抗感を抱かれるこ